



年の瀬を迎え、何かとせわしく感じるころとなりました。学校では、待ちかねた冬休みを前に、子どもたちは学習の締めくくりや身の回りの整理・整頓等、節目を迎える準備を進めています。コロナ禍の今の状況はまだまだ続くでしょうが、最善の対処をして乗り切りたいものです。そして、子どもたちが家族の皆様と一緒におだやかな年を迎えることをお祈りします。

『鬼滅の刃』参上！！ 魔物を切り払え！

今、鬼師のまち高浜と今注目のアニメ「鬼滅の刃」がコラボし、さまざまな形でまちを盛り上げています。その一環で、市内10人の鬼師さんが制作にあたり、14種類のキャラクター作品ができあがったそうです。先日、たまたまかわら美術館に寄ったところ、それらを買求めるため、県内外から大勢の家族連れが訪れていて、賑わっていました。高浜のまち、瓦のまちを知ってもらういい機会になりそうです。

学区の鬼師さんも制作に多く参加しているそうです。(株)石英の石川智昭さん(右写真)もその中の一人で、今回、高浜小学校に飾り瓦を寄贈してくださいました。瓦には、キャラクターの姿が描かれていて、子どもたちには大人気のもので、板瓦の上にキャラクター型の粘土板を貼り、成形したそうです。作品は、校舎1階西のガラスケース内に展示しています。



<石川智昭さんと飾り瓦>

ただ、高浜の鬼瓦は、魔物を退治するのだけど、「鬼滅の刃」は、その名の通り、鬼を滅ぼします。ちょっと複雑な感じもしないでもない、石川智昭さんは語っていました。鬼は魔物を退治することから、古くから屋根瓦に使われてきました。鬼滅の刃も魔物を切って追い払うということでは同じです。子どもたちは、どんな魔物を切って追い払うのでしょうか。さしあたって、新型コロナウイルスの魔物、それに伴って人の心に生まれる差別でしょうか。

余談ですが、私がかかわら美術館を訪れたのは、「市制50周年・開館25周年記念 土と炎の継承—高浜の景色—」を見るためでした。意外にも、一番初めに「饕餮(とうてつ)」が展示されていました。これは、中国神話の怪物で、貪欲で何でも食らい、人々を苦しめる象徴です。それを屋根に載せ、家を守るとは驚きでした。饕餮の「饕」は財産を貪る、「餮」は食物を貪るを意味し、名前の通りです。とんでもない怪物ですが、後に「饕餮=魔を喰らう」という考えが生まれ、魔除けの意味をもつようになったそうです。先人の考え方のたくましさを感じました。

(文責 中川健二)